

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

製茶問屋 大島清吉商店 本店



当物件は、水戸城下と瀬戸井を結び筑波山神社への巡礼道でもあった歴史ある「瀬戸井街道」沿いに位置し、大正初期の創業より100年以上地元さしま茶を始め日本各地の銘茶を一貫して扱い、地元住民に親しまれている老舗の製茶問屋である。

今回、既存建物の撤去を機に街角の「たまりの場」となるべく改修・増築を伴うリニューアルを企画し、『アウトドアにも日本茶を』のテーマの下新たなユーザーを惹きつけ、街道を行き交う人々が自然と敷地内に引き込まれるような魅力的なイベント広場の空間づくりを行った。

外観に関しては、街道や店舗の歴史、隣地に建つ国登録文化財である「亀屋商事(旧飯島家住宅)本館」との調和を考え「茶箱」や「蔵」のイメージをモチーフにして、自然木、天然石、鉄などをふんだんに使用し歴史的な香りを出しつつも、無駄を削ぎ落としたシンプルな現代的形体とし、時代を超えて世代間を繋ぐ場となる建築を目指している。

講評

製茶問屋の象徴的なアイテムをモチーフにモダンなデザインでまとめていることを評価します。

広場としての活用もできる駐車場と一体的なスペースづくりや街道や店舗デザインにおける歴史的解析、抑揚の効いた素材選定など高く評価できます。欲を言えば東側に建つ近代建築や、既存建物と増築の調和に工夫があると良かったと思います。

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

酒井蔵・富岡蔵



平成20年度より取り組まれた古河駅西口の鍛冶町通りの拡幅・電線地中化工事に伴い古い商家建築が多く取り壊され、江戸期から昭和期まで栄えた商家の街並みが失われそうになった。そのなかで酒井氏より保存を条件に土地・建物が古河市に寄贈された。また取り壊す予定の富岡蔵も富岡氏が経費を負担して現在地まで2日ばかりで路上70mを曳家し古河市に寄贈された。酒井家は肥料問屋時代の大正2年築の石倉と座敷蔵が保存された。富岡家は木炭卸業時代の明治39年着工の店蔵が保存された。

その後、古河市により、酒井石倉・富岡店蔵の耐震修復や富岡店蔵前の古いポスト・松の木も昔の景観を参考に修景され、向かいの今城蔵とともに昔の面影がよみがえり、市民・他県からの来訪者に喜ばれている。この間、建物内や中庭で展示会・演劇・講演会・討論会・コンサート・マルシェが単発で開催されたが、今後は空調機を設置して日常的な活用が望まれる。

講評

酒井蔵と富岡蔵の間に残る中庭が、まちとのつながりを生み出す領域として豊かな空間を演出しています。

商家のまちなみを後世に残すために、所有者からの寄附と市による耐震補強や復元修理が行われたうえで、新たな活用が行われていることは高く評価できます。特に、富岡蔵は道路拡幅によって消滅の可能性があった建物を曳家して、現在地に移し保存した結果、このエリアのランドマークとなっています。

今後、向かいの今城蔵と連携した蔵の利活用を期待します。